

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22401011

研究課題名(和文) 中米先住民運動における政治的アイデンティティ：メキシコとグアテマラの比較研究

研究課題名(英文) Representing political identities in Indigenous Movements: A Comparative study between Mexico and Guatemala

研究代表者

池田 光穂 (Ikeda, Mitsuho)

大阪大学・コミュニケーションデザイン・センター・教授

研究者番号：40211718

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円、(間接経費) 3,750,000円

研究成果の概要(和文)：私たちの研究は、メキシコとグアテマラ両国における先住民(先住民族)について、先住民運動の中にみられる政治的アイデンティティについて現地へ赴き民族誌調査を通して明らかにしてきた。具体的には、世界の他の地域での民主化要求運動、すなわち自治権獲得運動、言語使用の権利主張や言語復興、土地問題、国政への参加、地方自治などの研究を通して、(a)外部から見える社会的な政治文化としての「抵抗」の実践と(b)内部の構成員から現れてくる文化政治を実践する際の「アイデンティティ構築」という二つのモーメントと、その組み合わせのダイナミズムからなる資料を数多く得ることができた。

研究成果の概要(英文)：Our ethnographic research project clarified the political identities of indigenous movements in both Mexico and Guatemala. Specifically this study examines their own concept of "indigeneity" relating with various their "democratic demand movements" e.g. the right of autonomy, right of use of native language, language revitalization program, anti-discrimination movement, land-tenure conflict, anti-mining movement, political participation in both national and local government, and so on. We can identify roughly two major moments entangled with various historical, sociological, and political elements in these democratic demand movements; (a) contested situation of indigenous "resistance" as their creative political culture that we can observe from outside of their communities, and (b) their "identity construction and formation of indigeneity" as a part of cultural politics that can be emerged by their community membership.

研究分野：人文学D

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：先住民運動 先住民 政治的アイデンティティ メキシコ グアテマラ 政治文化 文化の政治学 ラテンアメリカ地域研究

1. 研究開始当初の背景

(1) 1980年代中期以降の、冷戦構造の崩壊は共産主義(ないしは社会主義)と資本主義を対峙させて、両方のイデオロギーとその政治的実践の対立図式の終焉を意味した。一般にネオリベラリズムと呼ばれる政治経済的な国際秩序が再構築される中で、世界ではさまざまな新たな対立紛争の構造が出現した。アフガニスタン崩壊後のイスラム原理主義の台頭とその国際的ネットワークの構築。それに対する非イスラム先進国による「平和維持」目的のための軍事進攻とそれに対する抵抗。民族的対立に端を発する複雑な宗教・人種・ジェンダーが絡まる「文化的差異」を憎悪のシンボルとする暴力的な対峙構造。政治的教条主義から「逸脱」した左派リベラルと右派保守主義を有徴とする政治論争。冷戦後のワシントンコンセンサスの受け入れを表明しグローバル経済をめざす中央政府が実行する地方分権や公共部門の民営化の強行とそれに対する反発、などである。

(2) 上記のような世界情勢のなかで、これまで民族的少数派(ethnic minorities)あるいは先住民・先住民民族(indigenous people)と呼ばれる人たちもまた、これまでの中央政府からの一方的な保護・弾圧・ネグレクトの動きに抗して、基本的人権としての生存権、民族的文化的な独自性や尊厳の尊重、教育・医療・福祉サービスの他の「国民」との同等な処遇などを求めるようになってきた。この背景には、国際的な支援団体、NGO組織、あるいは研究者などとの協力があり、法的知識や集団としての意識覚醒を通して、自らの少数派あるいは先住民性を「誇示」してきたことがある。メキシコとグアテマラの先住民の状況について現地調査を目的として計画立案した私たちが研究を始める前では、それぞれ1994年のメキシコ・チアパス州でのサパティスタ国民解放軍による軍事蜂起、1996年末のグアテマラ政府と国民革命連合との和平合意が、引き続いてあり、これが20世紀末までの両国の先住民と国家との関係の枠組みを大きく変える一大契機となった。それ以降の10年間は、2007年9月における「先住民の諸権利の国連宣言」の国連総会での採択に顕れるように、国内外において先住民が、政治的権利主体としての顕示を強く表し、同時に、先住民社会内部でも、先住民アイデンティティの位置づけや具体的な政治目標の構築をめくり、活発な状況下にあった。

2. 研究の目的

(1) これまで所与と考えられてきた人種、ジェンダー、階級、エスニシティなどの諸集団が国家により構築された集団であり、そのために民主制はそれらの集団からの異議申し立てに対処する責務があるという視点は、批判的リベラリズム理論(Critical

Liberalism)として提示されてきた。文化人類学では、先住民は文化的アイデンティティであるという前提はいまだに払拭されておらず、それが構造的に構築された政治的アイデンティティであるという視点がないため、中米の先住民運動についても相反する評価がある。この研究の目的は、文化人類学と政治理論と交差させることにより、個別の歴史と社会状況から先住民運動と民主制との関係を再考することにある。

(2) そして、従来の研究では、政治理論の短所である普遍的モデルにそって理論化する傾向と、文化人類学の短所である文化とアイデンティティとを結びつけて考える傾向があり、私たちの研究は、この両者の視点を理論的に相対化することに寄与するだろうという目論見(=より具体的な目標)から出発した。従って、中米の個別事例から先住民を民主制度改良に向けて闘う政治的主体としてとらえることになり、その様態を民族誌的に記述ことを目標とした。それらの理論的粗描を試みることになるだけでなく、民族的少数者の包摂という課題は民主国家建設のジレンマとしてみなされてきた先行研究の主張とは真逆の主張、すなわち民主国家において民族的少数者の包摂という課題はむしろ国民国家の健全性のバロメーターである可能性を検証することも、その理論的課題(=より詳細な目標・目的)となった。

3. 研究の方法

(1) 研究対象地域と民族: メキシコ合衆国南東部諸州(ゲレーロ、イダルゴ、オアハカ)先住民、およびチアパス州とグアテマラ共和国の西部高地のマヤ系先住民(ツォツィル、ツェルタル、トホラバル、マム、カクチケル、ケクチおよび近隣民族)を対象とする

(2) 集中的に収集される調査テーマ群: 周縁化による排除から国政参加を目指したり文化的多様性の保全を国家に求めたりする運動、両国家における農地改革や土地権利運動の有無やその歴史的経緯、である。

(3) 民族誌的調査法について: 現地調査(観察、インタビュー、映像や音響資料収集、口頭ならびに文書資料の収集等)を遂行すると共に、調査結果や他の文献資料などを駆使して総合的な観点から比較おこなう。採用される現地調査方法は、文化人類学の民族誌学的手法、政治学研究における質的調査法、民族音楽学におけるサウンドスケープ論の援用と、それらの学際的検討。

4. 研究成果

(1) 平成22年度: グアテマラ共和国とメキシコ合衆国での双方の調査に全員が従事した。そこで調査ならびに報告されたことは以下のとおりである。メキシコ・チアパス州とグアテマラのマヤ系先住民の政治参加に関

するプロセスには著しい違いがあり、本研究のテーマが重要であることを確認した。グアテマラでは、ケクチ、カクチケル、マムの言語を話すマヤ系先住民の社会運動が調査され、悪化する社会治安のなかでも、民族芸術運動、言語運動、地方自治復権運動が活発化し、先住民の諸表象が様々な形をとって先住民の様々な局面におけるアイデンティティ主張に使われていることが明らかになった。メキシコではチアパスの他に、ゲレロ、イダイルゴ、オアハカ州で調査がなされ、先住民知識人や女性運動活動家および避難民などにインタビューが試みられた。その結果、暴力的な紛争形態をもちながらも広範な政治参加と「抵抗」に関する議論が展開されていることが明らかになった。

(2)平成23年度：グアテマラのサン・マルコス県における調査地の地元協議会(COCODE)と村長派の対立という共同体内の紛争事例の分析をおこない、地方分権化状況における先住民の政治的アイデンティティの覚醒過程について資料収集をおこなった。グアテマラのチマルテナンゴ県における内戦時における紛争の記憶や語りについて調べ、内戦に巻き込まれながらも、生き延びてきたマヤ系先住民の人びとが、現在の自分たちの生活と内戦の経験をどう結び付けて理解しているか、という疑問をインタビュー調査により解明した。メキシコ市のNPO、ミチョアカン州のプレベチャ先住民共同体、プエブラ州のナウァ先住民、モレロス州の祭礼などについて調査をおこない、先住民政治の模索とその失敗の要因について分析を加えた。また、メキシコ政府社会開発省の役人・官僚ならびにワステカ先住民の代表へのインタビューに成功し、社会開発プログラムの理論的基盤、実施状況と評価手法、評価についてヒアリングを行った。またソノラ州のヤキ先住民共同体における農地・農業問題について現地調査をおこなった。研究分担者たちは、この調査を研究における成果報告(一部)として『政治的アイデンティティの人類学』(昭和堂、2012年)を刊行した。

(3)平成24年度：米国サンフランシスコで開催されたアメリカ人類学会総会に参加し、世界の先住民運動の権利運動に関する学会発表を聞き、資料と情報を収集した。メキシコ・チアパス州ならびにグアテマラ共和国サン・マルコス県において、住民の政治参加に関する現地調査をひきつづきおこなった。その結果、先住民共同体においては、現実の政治紛争において先住民の伝統的価値を受け継いでいることが、政敵との差異を見出す重要な指標となることが明らかになった。グアテマラ共和国チマルテナンゴ県サン・ホセ・ポアキル町と近隣集落での実地調査をおこなった。そこで内戦の経験についての語りのなかに冷戦以前の19世紀末にまで遡れる行政自治意識の歴史認識が見られることを確認することができた。メキシコで開催された

ゲレロ学会で、「文化遺産」を巡る先住民社会の対応の多様性に関し現地研究者と意見交換をした後、メキシコ・トナカ地方の先住民社会の二つの「世界遺産」の資源活用の実態について調査した。「世界遺産」の資源活用については、そこから派生する利権の可能性や、その文化資源へのアクセスにより、複雑な権力の駆け引きが先住民社会の中のみならず、中央政府との駆け引きのなかでも生じることが浮かびあがった。グアテマラにおける地方分権化と公共政策、政治的アイデンティティをテーマに、首都グアテマラ・シティにおいて経済企画省・社会開発省・農牧省等の中央官庁幹部への聞き取り調査と資料収集を行った。メキシコのトラヤカパンの吹奏楽団ならびにグアテマラ共和国のアルタ・ベラパス県での伝統音楽ならびに、新世紀以降に若い世代に支持を集めつつあるマヤロックについての基礎資料の収集をおこなった。伝統音楽の解釈と、それを生かしたロック音楽などとの節合など、芸術創作活動において、先住民文化のアイデンティティ形成に大きな意味をもつことを確認した。

(4)平成25年度：サン・マルコス県コミタンシージョ町を中心に地方自治に関する聞き取りをおこなうと同時に、この町の出身村を出てグアテマラ市周辺に住み、先住民アイデンティティを維持しながら、他の先住民ならびにラディノ住民と共同しながら、居住地の地域問題(青年のアルコールや薬物中毒あるいは犯罪化)に取り組む男性の活動についてライフヒストリーを聴取した。先住民という出自は、当該地域において異邦人であっても、文化的知識、ヘゲモニーの担い手としても、人々の敬意を齎すことを確認した。チマルテナンゴ県サン・ホセ・ポアキル町を中心に、ポアキル町とその周辺集落との関係変化の歴史について、聞き取り調査をした。その結果、アイデンティティの編成に内在する、グアテマラ共和国内でのラディノとマヤ、北西高原地帯でのキチェとカクチケル、チマルテナンゴ県下でコマラパとポアキル、そしてポアキル地域での町民と集落民という重層的対立の図式が浮かび上がった。またチアパス州サンクリストバル市等で調査をおこない、メキシコ各地の先住民の巨大開発プロジェクトに抵抗する運動や土地・領域防衛や自治構築の運動の現況を調べた。とりわけ住民の開発運動に対する抵抗運動(例：テワンテペック地峡部の風力発電反対運動、モレロス州テポストランの高速道路建設反対運動)について調査した。これらの紛争に関する基礎資料は、他の地域の先住民が直面する開発事案に関する貴重な比較のための基礎資料になることを確認した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

池田 光穂, 情動の文化理論にむけて: 「感情」のコミュニケーションデザイン入門、『Communication-Design』(査読有) 8号(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター, ISSN: 1881-8234) Pp.1-34, 2013年3月
<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/handle/11094/24616>

太田 好信, アイデンティティ論の歴史化—批判人類学の視点から, 文化人類学(査読有) 78: 245-264, 2013

小林 致広, サパティスタ運動の新しいサイクル—タタ・ファン・チャベス・アロンソ講座に参加して, 先住民族の10年 News(査読無) 199: 1-6, 2013

池田 光穂, ハゲタカ物語, 臨床精神病理(査読無) 33, 2012, 3-6

池田 光穂, 地方分権における先住民コミュニティの自治: グアテマラ西部高地における事例の考察, ラテンアメリカ研究年報(査読有) 32, 2012, 1-31

Taki, Nanako. Ritual mlandusic and Q'eqchi' Maya women in the post-colonial war in highland Nanako Taki Guatemala. Music and Minorities in Ethnomusicology: Challenges and Discourses from Three Continent (査読有) special issues, 2012, 35-41.

池田 光穂, 伊藤京子, 西村ユミ, ディスコミュニケーションとコミュニケーション支援: その理論的素描, IEICE Technical Report) HCS2010-5, HIP2010-5(2010-5) (査読有) HCS2010-5, HIP2010-5, 2010, 23-28

池田 光穂, 西村ユミ, 臨床コミュニケーション教育: PBLから対話論理へ, 対話論理から実践へ, 日本ヘルスコミュニケーション研究会雑誌(査読無) 1(1), 2010, 48-52

小林 致広, 文化ツーリスモと文化遺産の観光化—クンブレ・タヒンとポラドールの無形文化遺産登録, 神戸市外国語大学外国学研究, 78: 2010, 1-32 (査読無)

太田 好信, 『政治的アイデンティティ』によって解明されるパワーとアイデンティティの関係, 民博通信, 129: 2010, 16-17 (査読無)

〔学会発表〕(計 24 件)

Ikeda, Mitsuho. Searching for real “Mam”: Political Issues on Civil and Indigenous Rights among the Mam-Maya People in Guatemala. IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 2014, May 18, 2014, at Makuhari Messe, Chiba City, Japan.

Ota, Yoshinobu. Indigenous presence in articulation: Cases from Guatemala, the Ryukyu Island and Hokkaido, Japan, compared. IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 2014, May 18, 2014, at

Makuhari Messe, Chiba City, Japan.

池田 光穂, 「先住民のアイデンティティについて考える (Уугуул үндэстний асуудалд)」モンゴル・日本国際学術交流シンポジウム・国際シンポジウム「モンゴルと日本—過去・現在・未来」日本=モンゴル協会、ウランバートル、2013年8月10日(招待講演)

池田 光穂, 先住民のアイデンティティについて考える: グアテマラ西部のマヤ系先住民の事例, 2013年6月8日, 慶應義塾大学三田キャンパス

池田 光穂, マヤ系先住民における地方自治をめぐる政治意識について, 日本ラテンアメリカ学会第34回定期大会, 2013年6月1日, 獨協大学

太田 好信, チマルテナンゴ県のある町に住む一家の遍歴: 混沌と内戦の語りについて, 日本ラテンアメリカ学会第34回定期大会, 2013年6月1日, 獨協大学

小林 致広, ゲレロ海岸山岳部の共同体権威地域審議会・共同体警察(CRAC-PC)の模索, 日本ラテンアメリカ学会第34回定期大会, 2013年6月1日, 獨協大学

滝 奈々子, メキシコとグアテマラにおける音楽演奏家の政治意識, 日本ラテンアメリカ学会第34回定期大会, 2013年6月1日, 獨協大学

Taki, Nanako. Ethnography of Mayan Culture Diversity, Music and Communication. Department of Journalism and Communication Media and Society Seminar Series. 2013年01月06日, University of Madras, India.

池田 光穂, 医療現場での医療通訳者の「文化の翻訳」の位相について, 日本文化人類学会第46回研究大会, 2012年06月24日, 広島大学東広島キャンパス

池田 光穂, 研究倫理 ABC: 「理解する」から「実践する」へ, 研究倫理に関するFD研究講演会(第3回)(招待講演), 2012年10月03日, 琉球大学大学院医学研究科

小林 致広, メキシコにおける「事実としての先住民自治」の実践, 第33回日本ラテンアメリカ学会定期大会 2012年07月04日, 中部大学

小林 致広, 共同体を超えた事実としての先住民自治—メキシコでの実践とその課題, イベリア・ラテンアメリカ文化研究会(招待講演), 2012年07月21日, 大阪経済大学

Kozaki, Tomomi. Perspectives of Latin American Studies in Japan. Latin American Studies Association (招待講演). 2012年05月12日, San Francisco, California. USA.

Kozaki, Tomomi. Decentralizacion y desarrollo rural: experiencias en Japon y Guatemala. SEGEPLAN/MINDES/JICA 共催(招待講演). 2012年07月31日, Ciudad de Guatemala

Kozaki, Tomomi. Experiencias de desarrollo rural en Japon: Politicas y aplicacion en America Latina. REDCAM (Red de Centroamerica, Caribe

y Mexicode Desarrollo Rural Participativo)及び Ministerio de Economica de la Republica Dominicana の共催 (招待講演), 2012 年 11 月 29 日, Centro de Exportacion, Santo Domingo, Republica Dominicana.

池田 光穂, EPA を通してみるコミュニティ・移民労働・ディアスポラ: その文化人類学的考察, 第 3 回東南アジア医療・福祉事情研究会, 2011 年 1 月 29 日, 日本橋ビジネスセンター (東京都中央区)

Ikedo, Mitsuho, La Identidad Política y los Movimientos Indigenas: Estudios Comparativo entre Guatemala y México.

PROIMMSE-IIA-UNAM, 2010 年 8 月 18 日, PROIMMSE-IIA-UNAM, San Cristobal de las Casas, Chiapas, México.

池田 光穂, 中米先住民運動と政治的アイデンティティ: メキシコとグアテマラの比較, 日本ラテンアメリカ学会第 31 回定期大会, 2010 年 6 月 5 日, 京大会館 (京都市右京区)

池田 光穂, 構造的暴力と健康と病いの社会学, 第 36 回日本保健医療社会学会大会, 2010 年 5 月 16 日, 山口県立大学看護栄養学部

②池田 光穂、伊藤京子、西村ユミ, ディスコミュニケーションとコミュニケーション支援: その理論的素描, 電子情報通信学会・ヒューマンコミュニケーション基礎研究会, 2010 年 5 月 13 日, 沖縄産業支援センター

②狐崎 知己, 2010, 21 世紀のラテンアメリカ、ゼロ年代, 日本ラテンアメリカ学会第 31 回定期大会, 2010 年 6 月 6 日, 京大会館 (京都市右京区)

③小林 致広, 2010, クンブレ・タヒンとボラドールの無形文化遺産登録, 日本ラテンアメリカ学会 31 回定期大会, 2010 年 6 月 5 日, 京大会館 (京都市右京区)

④小林 致広, 2010, ポスト・サパティスモの問題構制—インディヘニスモからサパティスモへ、その後は, 京都人類学研究会, 2010 年 11 月 12 日, 京都大学文学部

〔図書〕(計 13 件)

池田 光穂ほか, 丸善, 世界民族百科事典 (共著: 国立民族学博物館編), 2014, 816
滝奈々子, 明石書店, ホンジュラスを知るための 60 章 (桜井美枝子編著・中原篤史編著), 2014, 344

池田 光穂ほか, 多文化共生センターきょうと, 医療従事者が知っておきたい外国人患者への接し方 (外国人医療カンファレンス編), 2012, 87

池田 光穂ほか, 春風社, 人と動物の人類学, 2012, 363

池田 光穂 (編著), 大阪大学出版会, コンフリクトと移民, 2012, 339

太田 好信, 昭和堂, 政治的アイデンティティの人類学: 21 世紀の権力変容と民主化にむけて, 2012, 352

狐崎 知己, 専修大学出版会, 変貌する現代国際経済, 2012, 420

狐崎 知己, アジア経済研究所, コスタリカ総合研究序説, 2013, 149

狐崎 知己, 国際協力機構, アンデス高地における持続的農村開発アプローチ, 2013, 76

狐崎 知己, 岩波書店, 岐路に立つキューバ, 2012, 288

池田 光穂ほか, ナカニシヤ書店, 国際ポランティア論, 2011, 186

池田 光穂, 文化書房博文社, 看護人類学入門, 2010, 265

太田 好信, 世界思想社, 増補版・トランスポジションの思想, 2010, 355

〔その他〕

ホームページ等

【総論】

先住民 (先住民族)

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/051121indifinit.html>

先住民の世界

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/041127indigenous.html>

先住民か? 先住民族か?

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/000612racethnos.html>

先住民概念の擁護について

<http://cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/121110indigenous.html>

【先住民理論研究】

中米先住民運動の民族誌学的研究を通じた「先住民概念」の再検討

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/100228Identity.html>

中米先住民運動と政治的アイデンティティ

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/100422politicalID.html>

政治的アイデンティティと先住民運動

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/100422politicalID.html>

先住民の帰属アイデンティティと社会実践

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/100721indigenous.html>

中米先住民運動と政治的アイデンティティ: メキシコとグアテマラの比較

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/100606LAorz.html>

ナショナリズム・民族集団・少数民族の研究に関する基礎知識

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/100723nacion.html>

先住民・エスニックマイノリティのディアスポラとグローバリゼーション

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/101211diaspora.html>

先住民がもたらす「文化と政治」概念の再

考という提案から学ぶ

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/11033KulturPolitik.html>

【メキシコ】

La Identidad Política y los Movimientos Indígenas

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/101105identidad.htm>

メキシコとグアテマラにおける先住民・アイデンティティ・自治をめぐる諸問題

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/130601AJELA2013.html>

エミリアーノ・サパタ

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/100416zapata.html>

アシエンダ

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/100417hacienda.html>

【グアテマラ・中米】

国家とグアテマラ先住民

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/060401guateindigena.html>

グアテマラ社会における先住民表象のダイナミズム

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/090518guateindigena.html>

グアテマラ先住民運動に関する文化人類学的省察

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/040701guate.html>

先住民のアイデンティティについて考える：グアテマラ西部のマヤ系先住民の事例

http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/130608CA_indigenous.html

中央アメリカの民族誌と人類学

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/030619CA001.html>

グアテマラ先住民運動・ノート

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/090519Guatemala.html>

グアテマラ西部高地先住民共同体と経済（暴力の内旋）

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/violent.html>

【日本の先住民】

我が国（日本国政府）のアイヌならびに先住民に関する認識の現状 [2007-2008]

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/090529ainu&indigenousP.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池田 光穂 (IKEDA, Mitsuho)

大阪大学・コミュニケーションデザイン・センター・教授

研究者番号：40211718

(2) 研究 分担者

太田 好信 (OTA, Yoshinobu)

九州大学・大学院比較社会研究院・教授

研究者番号：60203808

狐崎 知己 (KOZAKI, Tomomi)

専修大学・経済学部・教授

研究者番号：70234747

(平成24年度まで、任務完了のため以降削除した)

小林 致広 (KOBAYASHI, Munehiro)

京都大学大学院・文学研究科・教授

研究者番号：10145823

(3) 連携研究者

滝 奈々子 (TAKI-TERADA, Nanako)

大阪大学・コミュニケーションデザイン・センター・招へい教員

研究者番号：70571553